

特別市民セミナー

アジアにおける 米国の戦術核兵器 ～過去、現在、未来～

US Tactical Nuclear Weapons in Asia : Past, Present and Future

中距離核戦力(INF)全廃条約の破棄、中国からの軍事的脅威等を理由に、拡大核抑止の強化と戦術核兵器のアジアへの配備を支持する声が出始めた。本講演では、過去に米国が中国に対し戦術核兵器を使用すると威嚇した時の影響や、現在これらの兵器を再配備しようとしている日米の動きなどを分析したうえで、将来、北東アジア非核兵器地帯を実現するために、憂慮する市民が何ができるかについて提言を行う。



講師

グレゴリー・カラッキー

Gregory Kulacki

米国メリーランド州立大学にて1994年に政府・政治学博士号を取得。国際教育交流評議会の中国担当ディレクター、グリーン・マウンテン大学准教授、ピッツァー大学対外研究部長を経て、2002年に「憂慮する科学者同盟 (UCS)」に参加。中国の核軍備管理政策と東アジアにおける米国の拡大核抑止政策に焦点を当て、過去30年間にわたり中国に住みかつ研究を実施してきた。専門分野：中国の核兵器政策、宇宙プログラム、異文化交流政策

2020

1/11土

入場無料
事前申込不要



時間▶ 13:30～15:30

●RECNAと語ろう 15:30～16:30

場所▶ 国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館
地下2階 交流ラウンジ

主催▶ 核兵器廃絶長崎連絡協議会(PCU-NC)
〒852-8521 長崎市文教町 1-14

TEL▶ 095-819-2252

URL▶ <http://www.recna.nagasaki-u.ac.jp/recna/pcu>



共催▶ 長崎大学核兵器廃絶研究センター (RECNA)

核兵器廃絶
長崎連絡協議会
PCU-Nagasaki Council

RECNA
長崎大学核兵器廃絶研究センター
Research Center for Nuclear Weapons Abolition

